

陸軍

十二月十三日(日)晴 天谷支隊渡河 陣地撤去 鎮江ニ到着

一 午前五時射撃準備完了シテ待機ス

天谷支隊 二 天谷支隊ハ五時頃ヨリ 我驅逐艦及砲艦掩護ノモトニ

渡河 渡河ヲ開始ス 敵ノ抵抗全クナク整然ト上陸ヲ行シ

午前八時過尚舟艇ノ盛ニ往復スルヲ見ル

陣地撤去 三 午前八時「林」小隊ハ陣地ヲ撤收シ左小隊ハ其儘ノ態勢

ヲ以テ待機ス「キ」要旨命令ニ接シ直ニ第二分隊ニ

撤收ヲ命ス

次テ午前十時「左」小隊ニ撤收ス「カ」命令アリ撤去セシ

ム

陣地撤去ニ 四 午後一時「四」獨攻ニ作命第四十二號ヲ受領シ左ノ中

閉止命令 隊命令ヲ下達ス

中隊命令

十二月十三日午後二時 於歸政鎮江醫政學院

一 天谷支隊ハ揚子江ヲ渡河セリ

										大隊ハ只今ヨリ 鎮江―句容―南京道ヲ南京ニ 向テ前進ス
										一中隊ハナルヘク速ニ陣地ヲ撤收シ 鎮江―丹陽― 句容―南京道ヲ南京ニ向テ前進セントス
										三 出發ハ故障牽引車ヲ集結シ上 明十四日午前七 時ト豫定ス
										四 予ハ只今ヨリ宿舎ニ到ル
										第二中隊長 陸軍砲兵中尉 松田三雄
										下達法
										各小隊長ニ口達
										井上少尉ハ鎮江―句容道ヲ偵察ノタメ 午前八時出發
偵察										午後一時歸著
										偵察結果 一 乗用車、自動貨車ハ通過シ得ルモ火砲ハ
										橋梁不良ノタメ通過不能ナリト

昭和十七年四月廿一日

<p>十二月四日(月)晴 鎮江出發 南京ニ向テ</p>	<p>故障牽引車 一午前一時遅レル牽引車二輛 小田山准尉ノ指揮ヲ以テ到</p>	<p>到着 著セルレ尚變速機不具合ノヲ修理ヲ繼續シ午前七時出</p>	<p>發ニ間ニ合ハス十時マテ出發ヲ延期スルニ決ス</p>	<p>起重機脚柱 二米井伍長(牽引自動車隊)原上等兵ハ江陰西側陣</p>	<p>搜索 地ニ置キ忘レル牽引車起重機脚柱ヲ搜索ノヲ乗</p>	<p>用車ニ二三號ニテ出發ス</p>	<p>三昨十三日鎮江市内ニ於テ拾得セシ消防自動車ヲ撤</p>	<p>宵修理シ漸ク行軍ニ參加スルコトナル</p>	<p>注意四 午前十時出發ニ際シ分隊長以上ヲ集メ左ノ注意ヲナス</p>	<p>一 中隊ハ幸ニ現在マテ大過ナク經過シ來レルヲ以テ</p>	<p>此良好ナル成績ヲ失墜セサル如ク注意スヘシ</p>	<p>二 行軍途中ヨク注意シ納谷ノ如キ外傷ヲ受ケ</p>	<p>サルヨウ</p>
-----------------------------	---	------------------------------------	------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	--------------------	--------------------------------	--------------------------	-------------------------------------	---------------------------------	-----------------------------	------------------------------	-------------

1637

	三行軍間南京マテハ敗殘兵多シ 特ニ句容以西ハ
	危険ナルヲ以テ警戒ヲ嚴ニセヨ
鎮江出發丹五	午前十時三十分出發
陽ヲ經テ白	徽徽發自動車ハ故障ヲ修理シソソ前進スルヲメ戰砲
免鎮著	隊ヲ先行セシム 丹陽ヨリ約四料北方ニ於テ岡田副官
	連絡ニ來ルニ會ス 自動車團州丹陽ニ午後四時五十分
	到着セルトキハ戰砲隊ハ既ニ前進シアリ
	六時白免鎮ニ到着セハ戰砲隊ハ早ク到着シテ付止中ナリ
	夕食ヲ終ヘ明朝晝ニ食ノ準備ヲ命ス
	前方約九料ノ黄土橋附近ト推定セラレル橋梁修理中
	ナリト聞キ中隊長偵察ノタメ先行 約二十分ニシテ橋
	梁ニ著 此橋梁ハ工兵ノ手ニテ完成シタルトコロニシテ
	火砲通過ニ何等支障ナキヤ 尚前方ノ句容入口ノ橋
	梁ハ未ク完成シテラス 明拂曉完成ノ見込アリト

(昭和十一年、長谷橋)

聞キ本夜ハ白兔鎮ニ休宿シテ明早朝前進スルコトト

シ道ニ砲側ニ引返ス

宿營命令 六 午後七時十分 白兔鎮ニ歸著シ中隊命令ヲ下達ス

中隊命令

十月十四日午後七時十分 於白兔鎮

一中隊ハ本夜現在地附近ニ宿營シ明十五日午前

七時三十分出發句容下麒麟門ヲ經テ北門附

近ニ向テ前進セントス

ニ警戒ニ関シテハ左ノ如ク實施スヘシ

一 砲廠衛兵

司令一上等兵ニ歩哨十二

二 各宿舎ニハ武装セル不寢番ニ名ツテ立哨スヘシ

三 携帶兵器ヲ身邊ニ置キ宿營スヘシ

三 予ハ左ノ寺ニ在リ

第二中隊長 陸軍砲兵中尉 松田三雄

十二月十五日 天晴 南京ニ向ヒ前進

白兔鎮出發 一午前七時三十分白兔鎮出發 霧深クシテ 十米前方

ハ通視 ヲカス

十時句迄入口ノ橋梁ニ到着ス 橋梁ニ徹宵修理ヲ

ナレ今完成シタルトコロナリ

牽引車ヲ離脱セシテ 通過スルニ 毫モ動搖マズ

二午前十一時十分新塘市附近 第五號橋梁著 該

橋梁ハ「ゴングリート」製ニシテ 爆破セラル 其修理不完

全ノタメ 大砲ハ通過不可能ト判断シ 橋下ヲ補修

シテ通過ス之ニ一時間十分賞ス

并上少尉ヲ大隊本部ニ連絡シタメ 先行セシム

下麒麟門 三晝食ノ後 午後一時出發 午後二時湯水鎮通過 三

到着 時下麒麟門著 途中輜重部隊 蜿蜒トシテ續ケリ

先行シアリシ井上少尉歸リ、大隊本部ハ中山稜下中

	<p>央体育场ニ集結シテノ部隊ハ同所ニ集結ヲ命セリ <small>トシテ日報告アリ</small></p>
<p>中央体育场</p>	<p>梶浦大尉ニモ無錫以來久シ振リニ會ス 四道路ハ自動車、輜轡、ヲノ暫ク前進ヲ見合シ 四時</p>
<p>到着</p>	<p>下麒麟門出發 四時四十分 中央体育场ニ到着ス 五回獨攻ニ作命 第四十五號ヲ受領シ 直ニ大砲自動車</p>
<p>命令</p>	<p>ヲ体育场ニ入口ニ集結 五時四十分 觀覽席下ノ室ニ就 宿ヲ終ル</p>
	<p>午後七時 尤ノ中隊命令ヲ下達ス 十二月二十五日 午後七時 於南京中央体育场</p>
	<p>中隊命令 一、軍ハ一部ヲ以テ依然江北ノ作戰ヲ續行スレト共ニ主力 ヲ以テ南京附近ニ集結ス 軍直轄砲兵隊ハ一部ヲ以 テ南京城以東北側地區ニ主力ヲ以テ南京城東側地區ニ</p>
	<p>兵力ヲ集結ス 大隊ハ中央体育场ニ部隊ヲ集結シ爾後ノ行動ヲ</p>

昭和十二年六月 阪本納

準備ス

ニ中隊ハ中央体育場ニ村落露營シ戦闘後ノ整理並爾後ノ行動ヲ準備セントス

三各小隊ハ兵器器材ノ點檢整理ヲ入レテ徹底的ニ實施シ爾後ノ行動ニ遺憾ナキヲ期スヘシ

四明後十七日午前十時大隊長訓話アリ後軍

裝檢査ヲ實施セル但背囊鐵帽防毒面

ヲ除ク軍裝トス

五宿营地ノ警戒ニ関シテハ左ノ如ク實施スヘシ

ノ露營衛兵

下士官一上等兵二兵二四

警戒スヘキ場所 幹部宿舍附近ニ四人哨

砲廠^廠彈藥置場附近ニ四人哨

差出シハ十四日ヨリ本部第一中隊第二中隊

	段列 中野隊ノ建制順序トス
	又不寝番ハ各小隊毎ニ一名勤務セシムヘシ
	六中隊ノ日直將校ハ本日ヨリ井上少尉 ヌ藤田少尉
	木下准尉 上野准尉ノ順序ニ服務スヘシ
	七 日課時限左ノ如シ
	起 床 午前七時
	日朝點呼 同
	朝 禮 午前九時
	十時ヨリ 正午マテ
	十時マテ 一時間 軍紀教練
	十時ヨリ 正午マテ 兵器ノ手入
	午後八個人ノ裝具ノ手入 宿舎内及宿舎
	附近ノ掃除 休養 洗濯等
	大隊會報 午後四時

(昭和十一年、長谷紀)

陸軍

衛兵交代 午後五時

中隊會報 午後七時

日夕點呼 午後九時

第二中隊長 陸軍砲兵中尉 松田三雄

下達法

分連長以上ヲ集ム口達ス

注意

一 水不十分ナルヲ節約使用スルコト

二 兵ノ敬禮 服裝 態度ヲ嚴正ニ實施スルコト

三 酒ニヨル間違ヒヲ起ササルコト

四 明日中ニ散髮鬚剃ヲ實施シオクコト

所 見六 鎮江ニ於テ第十三師團天谷支隊ノ渡河攻撃ニ協力

シタルヲ遂ニ期待ス南京攻略戰ニ参加シ得ナリシニ上

海上陸以來 先ツ第一ノ目標ト考ヘタル 敵國首都ニ來

リテ 壯快ニ堪エス	然ニテ吾人ハ之ノミテ決シテ満足スルモノニアラス 敵將尚	屈シアラサル間ハ敵ハ戦争ニ負ケタルニアラス 日本ハ勝利	ヲ得タリト云フヘカラス 引續キ徹底的ニ膺懲スルノ覺	悟アルヲ要ス 上海ヨリ攻撃前進シテ南京ヲ陥レタリト	ハ云ヘ漢口、重慶ニ至ル何分ノ一ニ當ルヤ 誠ニ微々ト	ルモノナリ 戦ハ未チ序幕ニ過キヌ 吾人ハ一層ノ緊	張味ヲ以テ今後ノ對策ニ邁進セントスルモノナリ
-----------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------	------------------------

(昭和十一年、長谷部)

陸軍

十二月十六日(水) 晴 兵器、整備

一、昨夜ハ久シ振リニ熟睡ニテ敵國首都ニ一夜

ヲ明シ氣分誠ニ爽快ナリ

訓示ニ千前十時朝禮

昨日、所見ト同様ノ訓示ヲ與フ

兵器、整備 其後各區分毎ニ火砲、自動車、觀通器材、點

檢手入整備ヲ實施ス

1647

陸軍

十月十七日 晴 南京入城式

遠拜式 一 午前九時「グラウンド」ニ東面シテ大隊全員集合シ

大隊長訓示 遠拜式舉行 次テ大隊長ノ訓示アリ 後

陛下ノ萬歳 大隊ノ萬歳ヲ三唱ス

入城式参加者ノ軍裝検査行ハル 九時五十分終了

二 入城式参加人員ハ十時出發 徒步行軍ニテ整列

位置逸仙橋ニ向フ

中隊長以下 五十二名参加ス(参加者ハ中隊終員ノ約三分ノ一制限セラル)

入城式 三 午後一時三十分ヨリ入城式開始セラル

参加部隊ハ軍司令部 第三 第九 第十三 第

十六師團 軍直轄砲兵隊 其他ノ軍直轄部隊ニシテ

中山路兩側ニ堵列セル中ヲ 松井軍司令官 閱兵

セラル

1649

上海戦以来勇戦奮闘ニ 陸海軍将兵ノ意氣ハ
正ニ天ヲ衝クノ概アリ 空ニハ敵ノ心騰ラ寒カラシム
クル友軍飛行機六七十機編隊飛行ヲサント入
城式ニ参加セリ

(昭和十一年、長谷川)

1650

陸軍

十二月十八日(金)曇時雨模様 慰靈祭

慰靈祭参列

一中隊長以下 四十八名 南京城内龍行場ニ於ケル慰靈

祭ニ参列ス

氣候急變シテ今日ハ寒氣膚ヲ刺スカ如ク出征ノトキ
聯隊ノ營庭ニ於テ行ハレタル祈願祭ノ暑サヲ對照シテ
想起セシメラル

（昭和十二、七、長谷結）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1652

十二月十九日 (王) 晴	兵器、整備	石田上等兵以下 四名上海ニ出發	一、午前十時石田上等兵以下四名砲架車下砲架發條支板及發條ノ豫備品ヲリニ上海ニ向ニ乗用車ニ〇三號ニテ出發ス(行軍中、下砲架發條ヲ駐ルホルト折損シ發條支板ヲ落矢セリ 第一中隊ハ砲身車車臺發條支板ヲ落矢ス)	兵器、整備ニ	兵器、整備ヲナス																
--------------	-------	--------------------	--	--------	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

陸軍

1653

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(昭和十二年、英谷橋)

4

1654

																		十二月二十日(日)晴
																		兵器ノ整備
																		特記事項ナシ

陸軍

1655

(昭和十一、十七、奥谷稿)

22

1656

陸軍

十二月二十日(月)晴 南京見學

南京見學 一、午前九時三十分上野准尉指揮ニヨリ入城式ニ参加セラル人員

ハ貸車三輛ヲ以テ南京見學ニ出發午後二時三十分歸ル

石田上等兵以下二、午後十一時石田上等兵以下四名上海ヨリ歸著ス

四名歸著 發條駐メ^トホルトハ豫備品アリテ携行セルニ發條支

板ノ豫備品ハナク歸途在無錫攻城砲兵廠^廠ヨリ

代用ノ鐵板ヲ受領シ來レ

1657

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

（昭和十一、奥谷納）

1658

十二月二十三日(水)晴 兵器、整備

一、午後七時三十分 亀井軍曹以下三名歸著ス

二、行軍ノタメ第一分隊、砲身北匡尾板ニ亀裂ヲ

生シ第四分隊、砲身北匡ノ駐梁折損セリ之ヲ牽引

自動車隊、修理用自動車ニヨリ熔接修理ス

三、森川一等兵、常熟野戦病院ニ入院中、所 十二月三日

「コレラ」ニテ死セラル旨ノ通知ヲ受テ

森川一等兵上等兵ニ進級、大隊命令アリ

中隊命令

十二月二十三日午後七時
於南京城外中央体育场

一、後備役 陸軍砲兵一等兵 森川 岩雄

陸軍砲兵上等兵ヲ命ス(十二月三日附)

二、後備役 陸軍砲兵上等兵 森川 岩雄

十二月三日 「コレラ」ノ 常熟野戦病院ニ於テ死セラル

(昭和十二年、長谷範)

4

1660

陸軍

十二月二十四日(木)晴 出發準備

火炮修理完成 一 攻城砲兵廠移動修理班ニ依頼セシ 下砲架發條支

板ノ製作完成シ之ヲ取り付ク

二 終日明二十五日ノ出發準備ヲナサシム

前橋一等兵急死 中隊配屬ノ牽引自動車隊運轉手 前橋一等兵ハ

牽引車試運轉中 腦溢血ヲ起シ急死ス

出發命令 四 午後四時ヨリ獨攻ニ作命 第四十八號受領シ 左ノ中隊命

令ヲ下達ス

中隊命令 十二月二十四日午後七時 於南京城外中央体育场

一 獨立攻城重砲兵隊ハ 二十四日 午前七時 現在地

出發 常州ニ向テ前進ス

獨立野戰重砲兵隊 獨立氣球隊 砲兵情報班ノ主力ハ

同時ニ鎮江ニ向テ出發ス

軍直轄砲兵隊司令部ハ 鎮江ニ移動ス

1661

大隊ハ獨攻重第一大隊長ノ區處ヲ受ケ二十五日午	前八時現在地出發 馬群一 句容一 丹陽一	常州道ヲ常州ニ向ヒ前進ス	二 中隊ハ大隊ノ行軍序列ニ入リ 左ノ要領ニヨリ	常州ニ向ヒ前進セントス	一 戰砲隊ハ中隊長ノ指揮ヲ以テ二十五日午前	八時現在地出發 第一中隊ニ續行シ 馬群一	句容一 丹陽一 常州道ヲ常州ニ向ヒ前進	二 觀測小隊及各部隊ノ設營者ハ井上少尉ノ指揮	ヲ以テ二十五日午前七時現在地出發 馬群一 句	容一 鎮江一 常州道ヲ常州ニ向ヒ前進	行軍序列ハ大隊本部、第一、第二中隊、段	列ノ順序トス	三 井上少尉ノ指揮ニヨリ 行軍車輛ハ觀測小隊
------------------------	----------------------	--------------	-------------------------	-------------	-----------------------	----------------------	---------------------	------------------------	------------------------	--------------------	---------------------	--------	------------------------

(昭和十二年、長谷航)

1662

陸軍

自動貨車段列ヨリ配當ノ自動貨車二輛

(宿營材料積載) 徵發消防自動車 徵發乘

令自動車トス

三予八午前八時現在地出發 中隊戰砲隊ノ

先頭ヲ常州ニ向テ前進ス

第二中隊長 陸軍砲兵中尉 松田三雄

下達法

分隊長以上ヲ集メテ口達筆記セシム

1663

(附録二十一、表九)

1664

十二月二十五日(金)晴	南京ヨリ丹陽ニ到ル
先發隊出發	一午前五時起床 先發隊井上少尉以下四十五名ハ午前七時出發ス
戰砲隊出發	戰砲隊ハ午前八時出發ス
	徵發自動貨車故障ノタメ修理ニ時間ヲ要シ殘
	餘ノ貨車團ハ午前九時五十分出發ス
	各部隊移動中ノタメ南京一旬容間ノ道路ハ車輛多シ
	二午後四時十分丁庄鎮附近ニ於テ自動貨車團戰砲隊ニ追
	及ス
宿營命令	三午後五時三十分丹陽西側三叉路ニ到着 本夜ハ同地ニ休宿スルニ決シ左ノ中隊命令ヲ下達ス
中隊命令	十有五日午後六時 於丹陽城西側三叉路
	一 中隊ハ本夜現在地ニ村落露營セントス
	二 村落露營ノタメ利用スヘキ家屋ハ石ノ寺

各部隊ノ設營者ハ三家伍長ノ區處ニヨリ宿營ノ準備ヲナスヘシ	三給養ハ本夜ニ食ヲ飯盒炊爨シ明朝食後晝食ヲ炊爨シ置ルヘシ	四明朝ノ出發ハ午前七時三十分ニ出發準備ヲ完了スヘシ	五警戒ニ関シテハ左ノ如ク實施スヘシ ハ砲廠及車廠衛兵	第一中隊ヨリ 司令一 步哨六	第二中隊ヨリ 上等兵二 步哨六	兩中隊混成トス 速ニ三叉路ノ地點ニ差出スヘシ	エ宿營家屋ノ警戒ハ各小隊ヨリ一名ヲ不獲番ヲ設クヘシ	六予ハ午後八時以後寺ニ在リ
------------------------------	------------------------------	---------------------------	-------------------------------	----------------	-----------------	------------------------	---------------------------	---------------

(昭和十二年、長谷村)

1666

陸軍

第二中隊長 陸軍砲兵中尉 松田 三雄

下達法

分隊長 以上ヲ集メ口達

四兩中隊共ニ道路南側約一百米ノ寺院ニ宿營ス

五通過部隊カ宿營ニテ出發ノ際ニ放火スルヲメ道路

附近ノ家屋ハ殆ト燒盡サレ宿營地選定ニ甚ク困難

ス斯ノ如キ戡意ナキ一般民衆家屋ニ放火スルニハ

皇軍ノ倚信ヲ損シ支那民意ヲ日本ニ收斂セムル

國策ニ相反スルノミナラス我カ軍隊ノ爾後ノ宿營

利用ニ甚ク不利ナリ

全軍一般ニヨリ徹底シ放火ヲ嚴禁スルヲ要ス

昭和十三・大阪・廣本箱

1668.

陸軍

十二月二十六日 晴 丹陽ヨリ常州ニ至ル行軍

二。四號到着 一。南京出發後間モナク車体發條ニ故障ヲ生シテ

ル第二。四號車ハ南京ニ引返シ自動車支廠ニ於

テ修理ヲ完了シテ午前零時半到着ス

出發前注意 二。午前七時二十分 分隊長以上ヲ集メ左ノ注意ヲ與

フ 一。行軍前後 縛著物ノ點検ヲ綿密ニ實施

スルコト

二。行軍中ノ遞傳連絡ヲ確實ニスルコト

三。民家ニ放火スルコトハ嚴禁ス

出發 三。午前七時四十五分 丹陽西側ニ又路出發 常州ニ向フ

中隊長柴田等 四。丹陽城内ニ至ル分岐點ニ於テ 戰砲隊ニ前進ヲ

命シオキ 在丹陽 野戰豫備病院ニ入院マシ患者約

谷一等兵 柴田一等兵ヲ見舞フヘク 病院ニ到リタルモ(長川

病院ニ見舞フ

出	發	六	午後零時十分	主水橋發	徵發自動車ハ改
			障多キタメ之ヲ	後尾ニシ	戰砲隊ヲ先行セシム由隊
			長ハ故障自動車掌握ノタメ	最後尾ヲ	前進ス
			主水橋到着	五	午前十一時十分
			主水橋ニテ	戰砲隊ニ追及	晝食ノ
			ヲメ大休止ヲナス		
			精神ヲ沈静シ充分療養ノ上	再ヒ中隊ニ復歸スルマツ	
			激勵シテ病院ヲ出ツ		
			スルト		
			傷當時ヨリ良好トナルモ尚呼吸スルトキ	胸ニ痛ミヲ感	
			癒シテ中隊ニ復歸スルコトヲ	熱望シ居タリ	病狀ハ負
			目前ニシテ	負傷シタルヲ甚ク遺憾トシ	一日モ早ク治
			シモ	輸送列車ノ都合ニヨリ	病院ニ在リ
			錫ニ後送セラレテ	不在	味田一等兵ハ二十日後送ノ筈ナリ
			伍長	森田衛生上等兵ヲ伴フ	納谷一等兵ハ二十四日無

昭和十二年六月廣本稿

1670

自動車故障ノ
ク停止ス
七午後一時四十五分 高頭附近ニ於テ徵發貨車一前

車輪軸折レタルヲメ ニ。一號 徵發乗合自動車ト共
ニ三輛 停止ス。ニ。一號ヲ以テ 道路附近ニ廢

棄シタル 自動車ヨリ 部品ヲ取外シ來レルモ 適合セ

ス 依テ次ノ如ク 處置ス

中隊長ハ 部隊掌握ノタメ 一應常州ニ到ル 必要ナル

ヲ以テ 速ニ常州ニ到リ 直ニ自働貨車ヲ 派遣シテ

所要ノ 部品ヲ 南京附近ニ於テ 廢棄自動車ヨリ

拾集シテ 修理スルニ決ス

(現在殘レル 徵發乗合自動車ヲ以テシテハ 南京往復

ハ 疑問ナリ)

道路外ニ 徵發ニ出テアルコト、 道路上 自動車ノ側

ニ 藁屋根ヲ造リ 集結シテ 休養スルコト 及 警戒ヲ

嚴ニスルコト

中隊長出發	以上三項ノ注意ヲ與ヘ生駒曹長ニ指揮ヲ命ス
八	中隊長ハ長川伍長 唐金一等兵ヲ伴ヒ 高嶺頭附近ヲ出發ス 金壇城北側約ニ料ノ地點ヲ第一中隊ノ牽引車故障ノタメ 残留シアリ
道路ノ景況	九 丹陽—金壇城間ノ道路ハ凹凸極メテ多ク 自動車ハ十料以上ノ速度ヲ出シ得ス
	十 午後六時 金壇城通過 金壇城ヨリ以東 常州ニ至ル 道路ハ良好ナリ
常州ヨリ貨車一輛迎ニ來ル	十一 金壇城ヨリ 約十五料 前進シタルトキ 先行セル徵發自動車 (「カイマメント」) 運轉手 杉本(一等兵)ニテ羽玉上等兵以下七名 煙レタル車輛ヲ迎ハルノメ 常州ヨリ引返シ來レルニ會ス
	此車輛ハ揮發油少ク 高頭ヲテ 前進不可能ノ虞アリ 此處ヨリ 常州ニ至ル 途中ノ道路止ニ廢

昭和十二・大坂・廣本稿

	<p>棄シアル自動車ノ部分品ハ故障自動車ニ適合スル可 能性アルヲ知り同所マテ共ニ常州方向ニ前進ス</p>
	<p>杉本一等兵ヲシテ廢棄自動車ヨリ部分品ヲ取外サシメ 更ニ所要ノ修理用器材、揮發油其他ヲ運搬ハタメ貨車 ヲ出スヘク中隊長ハ常州ニ急進ス</p>
<p>中隊長常州ニ 到着</p>	<p>十二 中隊長ハ午後七時十五分 常州宿舎ニ到着ス 故障自動車援助ノクメニ。五號貨車ニ出發ヲ命ズ</p>
	<p>宿舎ハ既ニ昨二十五日夕刻到着セル先發員ニヨリ設營 ヲ完了シ戦砲隊モ午後六時二十分到着シテ火砲其 他材料ヲ集結シ就宿シテリ</p>
<p>宿營ニ関スル 命令</p>	<p>十三 午後四時井上少尉ハ四獨攻ニ作命 第四十九號ヲ受 領シアリ</p>
	<p>午後八時 左ノ中隊命令ヲ下達ス</p>
	<p>中隊命令 十二月二十六日 午後八時 於常州松田隊宿舎</p>

一	大隊ハ松村部隊長ノ指揮ヲ以テ 現在地附近ニ 宿營シ 警備ニ任シ爾後ノ行動ヲ準備ス
二	中隊ハ 現在地ニ宿營シ 警備ニ任シ爾後ノ 行動ヲ準備セントス
三	各小隊ノ配宿ハ設營者ノ準備ナル通リトス
四	本日ノ部隊日直將校ハ富山中尉 巡察將校ハ 中原少尉 中隊日直下士官ハ中村伍長
五	警戒勤務ニ関シテハ左ノ如ク實施スヘシ
(一)	砲廠衛兵
	司令一 上等兵二 歩哨 十八
	各部隊混成トス 差出シ及 服務要領ハ 大隊規定ニ依ル
(二)	部隊衛兵 各隊毎ニ服務
	司令一 上等兵二 歩哨 六

昭和十二・大坂・廣本納

1674

衛兵所ハ中隊長宿舎内トス

部隊衛兵服務要領別紙第一ノ如シ

(三) 夜間各小隊毎ニ警戒兵(不寢番)一ヲ設ケシ

宿舎警戒兵(不寢番)守則別紙第二ノ如シ

(四) 警急集合場ハ破廠トス

六日課時限左ノ如シ

起床並日朝點呼 午前七時三十分

朝 食 同 八時三十分

朝 禮 同 九時

晝 食 正 午

大隊會報 午後四時

夕 食 同 五時三十分

中隊會報 同 七時

日夕點呼 同 八時三十分

										消燈 同 九時	56
										七、給養ハ現品ヲ主計ヨリ受領シ各隊毎ニ實施ス	
										中隊ハ給養掛下士官各分隊ニ交附シ分隊毎	
										ニ炊事スヘシ	
										八、井上少尉ハ自動貨車ヲ以テ速ニ金壇城北側	
										約八軒ニ在ル故障自動車ヲ修理シ現在地ニ	
										誘導スヘシ	
										九、予ハ本宿舎ニ在リ	
										第二中隊長 陸軍砲兵中尉 松田三雄	
										下達法	
										分隊長以上ヲ集メテ達筆記センム	
										注意	
										一、軍紀風紀ノ保持止 左ノ件ニ注意スヘシ	
										公用ノ外外出ヲ禁ス	

昭和十二年大阪廣本納

1676

掠奪、強姦等、行爲ヲ嚴ニ戒ム

敬禮ヲ嚴格ニ實施スルコト

國貨ヲ他國ニテ使用セサルコト

二、防諜上

支那人ヲ使用スルナ

部隊ノ標識ヲモス A、B、C、D、K(中野隊)

ヲ用フヘシ

三、對空警戒ヲ各自旺盛ニスルコト

十四午後九時三十分井上少尉以下警戒兵六名ニ〇五

號ニテ高頭ニ向ヒ出發ス

十五常州ニ於ケル中隊配宿並掃除擔任區分要圖別紙

第三、如シ

別紙 第一

部隊衛兵 服務要領

一 編成 司令一 歩哨掛二 歩哨六 計九

二 衛兵所 第一宿舎(中隊長宿舎)内

三 哨所 第一第二宿舎の間(現地指示)

四 守則

司令

一 C隊宿營地内、警戒並取締に任す

二 怪シキ者ヲ捕ハルトキハ 直ニ中隊長及部

隊日直將校ニ報告ス

三 少クモ晝夜各三回宿營地ヲ巡察ス

又歩哨

一 宿舎附近ヲ警戒ス 夜間ハ第二宿舎ノ

不寢番ト時々連續ス

別紙 第二

宿舎警戒

宿舎警戒兵（不寝番）守則

兵守則

一 特ニ火災豫防ニ注意ス

二 就寝後 各室ノ燈火ハ一トシ 火ヲ小サクセシム

三 中隊歩哨ト時々連絡シ 警戒ス

四 衛生ニ注意シ 特ニ窓及戸口ノ 開閉ニ注意シ 外

氣ノ侵入ヲ防ク

五 異常ナル場合ハ 直ニ自ラ 處置スルト共ニ 小隊長ニ

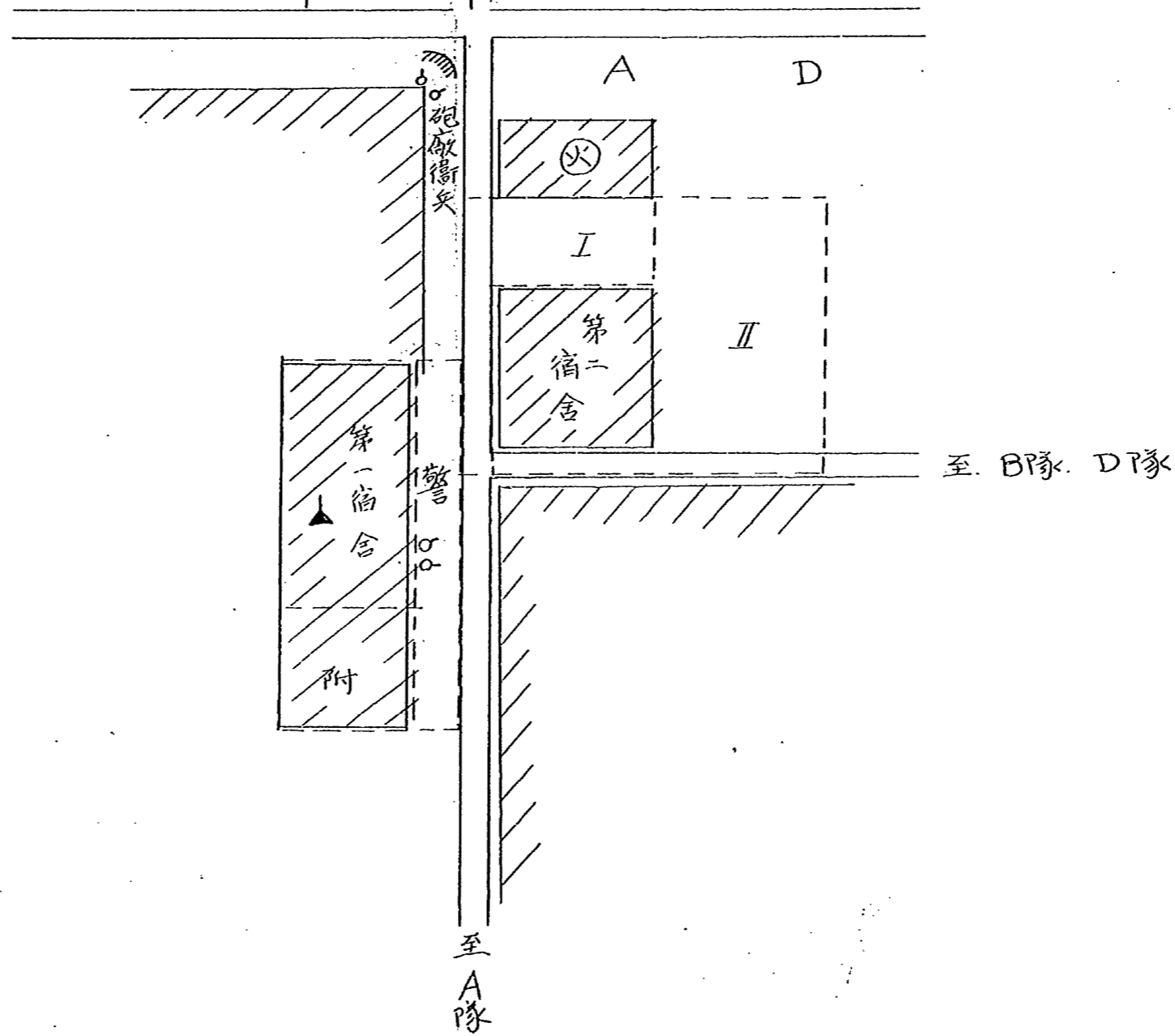
報告シ 衛兵ニ通報ス

圖要分區任担除掃並分區宿配隊C於州常

(日五月二十)

II 砲車廠 I 砲車廠 B

備考
 自己使用場所ハ勿論 共同使用場所ハ
 各使用者ニ於テ清潔スルモノトス



別紙
 第三
 三

1683

陸軍

十二月二十七日(日)曇 常州 警備

井上少尉以	一 廢棄自動車、部分品首尾ヲ故障自動車ニ適合シ
下到着中	井上少尉以下高井頭ニ残留セル人員自動車ハ修理
隊ノ集結終	ヲ終ヘ午前三時三十分到着ス之ヲ以テ由隊ハ全員集結ヲ終ル
課目	午前中火炮自動車其他ノ兵器ノ點検手入レ
	干後ハ宿舍以外ノ掃除ヲ實施スルム

昭和十二・大阪・商本納

1685

陸軍

十二月二十八日(月)雨 常州警備

午前課目

一 午前中 宿舎内外ノ掃除及整頓ヲ實施ス

大隊長ノ巡視アル豫定ナリシモ雨天ノタメ延期ヤラル

音羽種次郎

二 午後六時三十分 北支ニ於テ入院後行動不明ナリシ

歸隊

音羽種次郎 湯然歸隊ス

入院以後本日マテノ行動別紙ノ如シ

會報

三 午後七時 中隊會報

一 卅二十九 明後三十日 次ノ検査ヲ實施ス

イ 二十九日 火砲 餽通器材 自動車

ロ 三十日 地帯兵器

ニ 大隊長ヨリノ注意

イ 各人ノ外出ヲ嚴禁シ 間違ヒヲ起ササル様

ニスハシ

各分隊長ニ於テヨク監視スヘシ

1686

										ハ、敬禮ヲ嚴格ニ實施スルシ	ヲスヘカラス	ロ支那人ノ被服ヲ纏ッテ 教練 作業等
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------------	--------	--------------------------

昭和十二・大阪・關本納

1687

陸軍

〔別紙〕

音羽種次郎入院ヨリ本隊復歸マテノ行動

摘要

年	月	日	摘要
一 二	九	一四	長辛店ヨリ豊台野戰豫備病院ニ入院
一 九	九	一七	天津第一兵站病院へ後送
一 〇	一〇	九	同石退院 (同夜豊台ニ泊)
一 〇	一〇	一一	天津野戰豫備病院ニ入院 (十日天津若ニ泊)
一 二	一	一	同石退院 (兵站司令部ニ泊)
一 二	二	二	出發
一 二	二	四	大連着 (関東倉庫ニ宿泊)
一 二	二	七	大連發
一 二	二	九	上海上陸 (兵站司令部ニ泊)
一 二	二	一〇	舟子行軍 (常州ニ泊)
一 二	二	二	行軍 (丹陽十三軒午前ニ泊)

一	二	三	四	五	六	七	八	
一	二	三	四	五	六	七	八	
二	三	四	五	六	七	八	九	
行	軍	(母陽)	(泊)	南京著 (一泊)	南京兵站司令部 (一泊)	鎮江内山部隊本部 (一泊)	同右 大隊段列貨車ニ會同泊	常州著 中隊長ノ指揮ニ入ル
一	十月三十日	天津ニ連絡ノタメ差出シタル	廣岡伍長ト會セサル	理由	音羽一等兵ハ天津野戰豫備病院ニ入院シリテ廣岡伍長ノ到リタル處ハ天津第一兵站病院ナリキ 且取初入院シアリ	タル處ナルヲ以テ 既ニ音羽 連院セリト病院ヨリ廣岡伍長ハ承知シ 歸還スルナリ		

昭和十二・大阪・廣本精

1689

十二月二十九日(火) 雪後曇

常州警備(兵器検査)

生駒曹長海

一 生駒曹長ハニ。三 號(長崎一等兵久保一等兵運轉)

ニ出發

ニテ 森川上等兵ノ遺骨ヲ受領ト納谷一等兵ニ連絡

シラメ 往路ハ無錫、蘇州ノ病院ニ連絡シテ上海ニ到

リ 歸路ハ常熟ノ病院ニ連絡スルヲ 午前九時二十分

出發ス

兵器検査

二 天候不良シラメ 今明兩日ノ兵器検査ヲ振替ヘ本日

ハ 携帶兵器ノ検査ヲ實施ス

一 般ニ鹵獲小銃ノ手入レ充分ナラス

會報

三 中隊會報

大隊會報中必要ナル事項ヲ 達ス

一 三十一日朝禮後 大隊長ノ宿營地並ニ必務巡

視アリ AIC-砲廠DIBノ順序

午後二時 大隊朝禮場ニ於テ大隊長ノ訓示アリ

										<p>ニ野菜物ノ微發ハニニ名ニ行カヌト</p> <p>ニ防諜上紙屑類ヲ燒却スヘシ</p> <p>曰直下士官ノ担任トス</p>		

昭和十二年大阪府本籍

1691

陸軍

十二月三十日(水)曇後晴 常州警備 (兵器検査)

午前中課目 一 午前中火砲 自動車ノ手入ノ實施

兵器検査 二 午後二時ヨリ 火砲 自動車及觀通器材ノ現況手

入レ検査ヲ實施ス

火砲ハ修理ヲ要スル個所相當多シ 速ニ修理ヲ完了

シ次期戦闘ニ備フルヲ要ス

正月準備 三 警戒小隊ノ人員ヲ以テ 朋松 七五三繩等正月ノ夕

ノ裝飾ヲ行フ

中隊命令 四 中隊命令

十二月三十日 於常州松田隊宿舎

一 補充兵役 陸軍砲兵二等兵 熊代景雄

同 同 澤田正夫

砲兵一等兵ヲ命ス

1692

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

昭和十二年大阪府本籍簿

1693

陸軍

十二月三十一日(木)小雨 常州警備 (大隊長巡視及訓示)

訓示 一朝禮時、意義深キ、昭和十二年度ヲ送ルニ當リテ

ノ所懐ヲ述ヘ來ルヘキ、昭和十三年度ハ一層緊張

シテ事變ニ處スル覺悟ヲ要スルレ旨ノ訓示ヲナス

大隊長巡視 二 午前十時四十分ヨリ 大隊長ノ舎内巡視アリ

引續キ砲廠車廠ノ巡視ヲ受ク

大隊長訓示 三 午後二時ヨリ年末ニ對スル大隊長ノ訓示アリ

生駒曹長歸著 四 午後四時三十分 生駒曹長歸著ス

納谷ハ上海兵站病院ニ在リテ、連絡シタルモ、森川上等

兵ノ遺骨ハ入院マシ、常熟ノ野戦病院移轉ノタメ

不明ナリ、改メテ搜索セシムルコトス

中隊現員 五 中隊現在人員左ノ如シ

將校 三 准士官二 下士一〇 兵一五六 計一四一

事故人員左ノ如シ

